

研究員 の眼

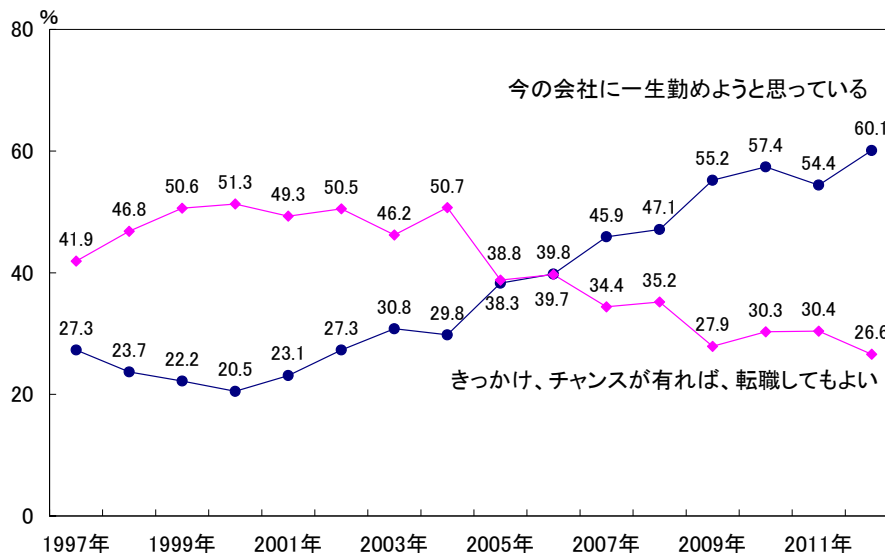
就職人気ランキングで考える グローバル化時代の若年層の 安定志向

生活研究部門 研究員 久我 尚子
(03)3512-1846 kuga@nli-research.co.jp

今朝、日本経済新聞社で就職人気ランキングが発表された¹。弊社親会社の高評価は大変喜ばしいことだ。ただ、驚いたのは、これだけグローバル化の必要性が言われる中で、上位に外資系企業があがらないことだ。もちろん上位にあがった日系企業は積極的に海外戦略を展開し成功をおさめているところも多い。しかし、学生が各社を選んだ理由をみると「規模が大きい」「安定している」「一流である」などが並び、海外展開は直接的な理由にはないようだ。

若年層の安定志向は企業選びだけでなく、その後の働き方にもあらわれている。日本生産性本部「2012年度新入社員春の意識調査」によると、転職についての考え方を問う設問で「今の会社に一生勤めようと思っている」と回答する割合は年々増加している（図1）。2000年では20.5%だが、リーマンショック後の2009年には半数を超え、2012年では60.1%にのぼる。

図1 転職についての考え方の推移



(注意) 転職についての考え方を問う設問で選択肢は「今の会社に一生勤めようと思っている」「きっかけ、チャンスがあれば、転職してもよい」「現在、ぜひ転職したい」「いずれでもない・わからない」の4つ
(資料) 公益財団法人日本生産性本部「2012年度新入社員春の意識調査」から、筆者作成

¹ 日本経済新聞、第二部「日経就職 Navi2013年 新卒広告特集～生損保など金融 上位に」(2013/2/27)

このような若年層の安定志向は「若年層の保守化」などと上の世代から批判されることが多い。しかし、不況下で育ち、社会保障不安も強く、アベノミクスでやや期待感が出てきたものの依然として将来に対する明るい見通しを持ちにくい中では、保守的な志向を持つことは自然な流れだろう。

また、若年層が日系企業を好む理由として、若年層の海外離れの影響もあるだろう。若年層では海外留学や海外旅行が減っていることがさまざまところで話題になっている。これも上の世代から「内向き志向」と批判されることが多い。若年層が内向き志向となる理由は経済的な問題もあるだろうし、現在の日本の中でそれなりに満足した生活を送れることもあるだろう²。また、ひと昔前と比べて海外へ行くことに特別な印象もなくなり、日々、海外での物騒な事件も報道される中では、わざわざお金をかけて安全な日本から出るメリットを感じにくいのもかもしれない。

若年層の安定志向や内向き志向は自然な流れもあるだろう。また、そもそも現在の経済環境下で企業が安定した経営を維持できることは素晴らしいことだ。とはいえ、上の世代は若者たちの志向には物足りなさを感じ、チャレンジ精神やグローバル精神も求めるかもしれない。しかし、若者たちの価値観や志向は上の世代が牽引してきた社会環境の影響が大きい。若年層にチャレンジ精神やグローバル精神を求めるのであれば、社会を牽引してきた世代自身も変わる必要があるのではないだろうか。

私は現在 30 代半ばであり若年層でもなく、これまでの日本社会を牽引してきた世代でもない。同世代で活躍者も多いが、私自身は人にチャレンジ精神やグローバル精神をなどと大それたことを言える立場ではない。ただ、今、自分にできることとして、まずは現在の就労環境に感謝し、ささやかだが新年度に向けては苦手な英語を強化することと、私にとってはチャレンジングな英語での講演依頼も受けることを決意した。

² [久我尚子「若年層の生活意識と消費実態～厳しい経済状況の中、生活満足度の高い若者たち、その背景は？」、ニッセイ基礎研レポート、2012年7月25日号。](#)